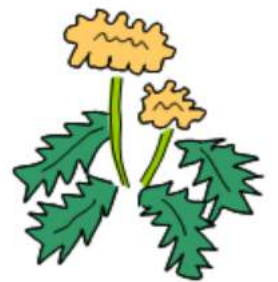




NO.434
R5年10月1日
発行
〒869-1217
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
☎096-293-8100



「久しぶりの宴」

施設長 木下昭二

「このところコロナでの「規制された生活」から、「コロナ禍前の元の生活に戻りつつある…」といった内容の話が続きますが、つい先日の10月7日(土)に約4年振りとなるご家族・保護者さんとスタッフとの合同懇親会を開催することが出来ました。施設を利用して頂いている利用者さんのご家族・保護者の皆さんは県内の広範囲に亘って在住しておられ、また一部は県外から利用して頂いている関係もあって、その懇親会の為だけに集まりいただくには申し訳なさもあるのですが、「ここ数年のコロナ禍の中の制限された生活」からの脱却の第1歩でもあり、長きに亘ってご家族・保護者の皆さんとゆっくりとお話する機会を設けることが出来ていなかった…ということもあり、このタイミングで開催に至りました。いつもコロナ禍

前と同様に「家族会の主導で準備していただき、スタッフはいわゆる「ご招待」という形での出席でした。開会に当たり家族会を代表して宮本新会長より、新会長としてのご挨拶と今後への意気込みと共に、スタッフの皆さんやご家族の皆様に対しての過分なる労いのお言葉を頂き、大変恐縮致しました。

施設からは松田理事長から、コロナ禍に於いての保護者・ご家族の皆様に対して、ご心配やご迷惑をおかけしたことに對するお詫びに続けて、コロナ禍においても変わらず継続的な施設へのご支援・ご寄付並びに差し入れ等をいただいていたことに関する感謝の言葉が第一声としてありました。家族会の活動については、他の施設さんと比べるようなことでもありませんが、創設者であり障がいのある子を持つ一人の親でもあられた故 田中 稔先生のご遺志を家族会として受け継いでいただき、我

が子のことを思い、また施設やスタッフのことを思って支えて頂いたこと、これほどまでに施設のことを思って支え、協力して下さっている家族会には他に見えないことに対する、感謝とお礼の言葉がありました。

その後、宴がスタートし、冷静に考えると当然のことなのですが、ここ3〜4年の間に入職したスタッフは初めての保護者・ご家族との懇親会であり、その数に改めて気付かされました。

コロナの状況によって時々帰宅の引き継ぎや受け入れの際に顔を合わせたりすることはあったものの、お互いを理解するほどの関係性が築けていた訳ではなく、その為、保護者・ご家族、スタッフ共に、お互いの「顔と名前が一致しない場合によっては、名前が分からない」という状況が認められ、改めて4年の月日は思っていた以上に永かったことに今更ながらに驚かされました。その

分自己アピールが必要なスタッフの皆さんは保護者・ご家族の皆さんの席を訪れては、積極的な自己紹介等が行われ、これまでの懇親会以上に会話のキャッチボールが繰り返されていたように感じました。

コロナの医学的分類が2類から5類へと変わったとは言え、まだまだ油断出来ない状況であることに変わりがない為、一次会のみで散会しましたが、以前は深い時間まで続き、日をまたぐほど盛り上がり続けていた時もありました。年齢を重ね今は私を含め、そこまでの元気の良さはありませんが、いつかまたそんな勢いをもって集える時があれば良いなあと思うています。今回は諸事情で参加出来なかつた保護者・ご家族の皆様、また近いうちにお顔合わせが出来ることを心待ちにしております。





10月



「自治会代表の思い」

今年度の自治会では、5名の方が利用者さんの代表として選ばれました。コロナウイルスの影響により、地域での活動が中止となり3年が経ちました。

今年も例年の通り、黄色レシートキャンペーンや地域での活動ができないとの連絡がありました。その為、自治会での活動は三気の里で行うことが中心になっています。その中の一つに「園内外の清掃活動」があります。三気の里周辺のゴミ拾いや、手洗い場の清掃などを行っています。代表のAさんは、他の利用者さんが気持ちよく使えることを意識、想像しながら活動に参加したと語っておられました。

地域での活動は中止になってしまいましたが、物事の大小はなく、一つ一つを大切に、三気の里を思い活動をする自治会代表の皆さんの温かい気持ちを知るきっかけとなりました。私は、今年初めて自治会を取りまとめる役割をさせて頂いています。分からないことばかりですが、自治会や三気の里を支える柱の一つに成長したいと思っています。

自治会 支援員 早瀬 寛

「環境美化係」

三気の里には人権擁護心がけ3項目があり毎朝、朝礼で復唱をしています。その一つに「三気の里で暮らせて良かったと思える支援をします」とあります。人権擁護の心がけではありますが、環境美化でも言えることのように思います。

私が小学生の時のことです。運動会の前になると全校生徒で運動場の石拾いがありました。先生からは「一人一個ずつでいいので石を拾いましょう」と言われていたように思います。キレイになった運動場を見ながら子どもながらに、全校生徒800人で一個ずつ拾ったんだから、石が800個もなくなったんだなあと思ったことを覚えています。三気の里では毎朝、利用者さん、職員みんなでそれぞれの生活場所の掃除をします。天気の良い日は窓を開けて布団を干しています。一日の始まりに掃除をして、作業に取り組み、風呂で汗を流し、気持ちのいい布団で就寝をする。三気の里で暮らせて良かったと思える環境をみんなで、力を合わせて作っていければと思います。

環境美化係 支援員 相馬 敦

「発信」

広報・ITではたんぼぼ機関誌やHPで三気の里の情報を伝える大きな役割を持っています。皆さんに三気の里の現在を伝えるべく、どのようにしたら上手く伝わるかと試行錯誤しながら編集を行っています。現在、芸術クラブや班で作品を作ったり、ゴールドクラブといった機能維持の体操を行ったりと沢山の取り組みを行っています。沢山の方に三気の里の現在の取り組みを知ってもらう為にリアルタイムでお伝えできればと思っています。また、利用者の皆さんの成長や暮らしなどわかりやすくお伝えすることの意味を考えながら取り組んでいきたいと思っています。

多くの方に三気の里のことを知ってもらう為にHPの更新やたんぼぼ機関誌での発信を続けていき、三気の里を支えて下さる皆さまに感謝を忘れず取り組んでいきます。

広報IT係 支援員 弓削 綾子

想いを汲み取る

苦情受付では、利用者さんや保護者、地域の方々といった三気の里に関わる全ての人から意見を抽出できるよう努める役割を担っています。利用者さんへは定期的に思いや要望を聞き取るための「話し合いの部屋」を設け、受付担当が利用者さんと話をする機会を確保しています。また、保護者や地域の方などからご指摘を頂いた場合には、早期対応・解決が図れるよう心掛けています。

今後の課題として、声を挙げにくい立場の方々の想いをどう汲み取っていくかだと考えています。気持ちをうまく表現出来ない利用者の方へは、個々の能力に応じた聞き取り方の工夫が必要です。多くの保護者の方は、我が子や家族がお世話になっているということが強く前に出てしまい、苦情といかないまでも支援に対するちょっとした不満や要望ですら声に出せないのではないのでしょうか。

私たち苦情受付は、そのような方々とも出来るだけ多くコミュニケーションを図り、何でも本音で話せる立場でありたいと願っています。それが、これから10年、20年後も三気の里が地域から必要とされる施設であり続けるために必要だと考えます。

苦情受付係 支援員 杉本 安代



グループホームより

グループホームバックアップは、今年度、地域との連携や社会参加を主に掲げ、お住いの利用者さんに充実した余暇時間を提供できるよう提案し、活動しています。ここ数年は新型コロナウイルスによって地域と関わる機会が少なくなってきましたが、今年度に入り「陣内食堂」や「地域清掃」など少しずつですが、参加ができるようになってきました。

しかし、現状も「これから地域行事に参加」と言う時に限って、猛暑や不安定な天候、感染症などの再流行によって、外に出る機会が遮られてしまっています。外に出ないことで、体力も加齢とともに徐々にダウンしてきており、地域活動に参加するための体力を、室内やグループホーム周辺で作っていく必要があると感じました。グループホームにお住まい皆さんが「楽しかった」「また行きたい」と心が充実して、いつまでも健康に過ごすことができるように、これからも活動していきたいと思います。

GHバックアップ 支援員 毛井 寛康

8/19 陣内食堂の昼食



療育雑記

「準備と選択」

主任 森田 康之

記録的な暑さの夏がようやく終わりを迎え、朝夕の気温に秋の気配を感じ始めました。色々な「〇〇の秋」がありますが、ここ数年の私は「読書の秋」が続いております。

しかし、本ではありません。数年前より所属している研修課で内、外部問わず届けられる色々な資料や冊子を読みます。とても読書とは言えないかもしれませんが、出勤、退勤前に何かを読むことが日課になっています。文字通り書き物を読む秋を過ごしております。そんな日々の中で、ここ最近特によく見るのが「意思決定支援」という単語。

2018年の社会福祉法改正を契機に考え方やシステムが徐々に広がり始めました。コロナ禍明けの昨年あたりから「意思決定」をテーマにした研修もより積極的に実施されるようになりました。厚労省が発出した意思決定

支援ガイドライン（H29年）を読むとその重要性和必要性が分かります。意思決定と一言で表しても、意思形成、表明、実現と各ステップに支援が必要です。

また、それに付随して各々の技術も不可欠となります。大前提として意思を伝える側、汲み取る側の双方の信頼関係があつてこそ進められる支援です。まだまだ勉強中の身なので、そのメカニズムを細々と書き記すことは割愛させていただきます。いつか披露させていただきます。そんな意思決定支援。今回は「準備と選択」をテーマにIさんのエピソードを紹介させて頂きたいと思ひます。

〈誕生日にて〉

Iさんは7月生まれの男性です。毎週実施されるコンビニ外出や様々な行事をとて楽しみにされてる方です。一方で、行事が楽しみのあまり、睡眠や排泄リズムが崩れてしまう事があります。その為、イベントの詳細については明確にかつ適切なタスキングを図って伝えるように工夫しています。

7月はIさんの誕生日。これまで

で誕生日に合わせて半日の個人外出を実施していました。6月中旬になると「市内（熊本市中心部）」「食べたいのはカツカレー、」からあげ、ちゃんぽん、餃子、「

「帰るの4時!」と頭の中は誕生日の外出の事が駆け巡っています。溢れる要望に四苦八苦する時期です。Iさんの表現するワードを繋ぎ合わせてひとつの行程を考えます。①熊本市に行きたい。②1時間程度のドライブ③外食をしたい。③三気の里に帰園するのは16時が良い。①②③の

ポイントを押まえて外出の行程を提示します。行程を見ながら納得するIさん。次に外出の中心身を考えます。食べたい物リストを作り、Iさんのメニュー表を作成しました。日によって時には場面毎に食べたい物が変わる発言（当然のことですが）が頻繁にあった為、何を食べるのかについてはあえて決めず、当日メニュー表の中から選んでもらうことで納得されています。次により具体的な外出の内容、次に熊本市内の行きたい場所、次に・・・といった具合にIさんの言葉を可視化して確認する作業

を繰り返していくうちに、Iさんの個人外出の行程表が完成しました。外出当日までは、日々の生活リズムが安定するように行程表の確認、頓服薬の使用を行いながら当日を迎えました。当日は終始穏やかな表情で、予定に沿ってスムーズに外出を楽しむことができました。三気の里に帰り、買い物されたあれこれを片付けしているときにIさんがボソッと「カツカレー美味しかった」とつぶやかれていました。

今回はIさんの個人外出の話を書かせていただきました。Iさんは自ら言葉で要望を伝えることができる方です。様々な物事から自らやりたいことを選択されたいように感じます。より良い生活を過ごして頂く為に支援者として更に選択できる幅を広げていく工夫が必要だと感じました。

また、三気の里には、言葉に出来ない思いを持たれた方々がたくさんいらっしゃいます。そうした方々の意思を汲み取れるように、より想いが実現できるように日々勉強です。秋の夜長を有効活用したいと思ひます。

人材確保

人材確保委員会

部長 松本慎太郎

熊本の阿蘇の田舎育ちのため、10年以上前に東京出張などで、コンビニや飲食店の店員さんが外国の方であることに、それはそれは驚いたものです。それが、数年も経つと、熊本でも、外国の方が働かれていることを見るようになったと記憶しています。そもそも外国の方を雇うことは、人材不足だけの理由ではありませんが、障がい福祉分野では、外国の方の採用に対して消極的な印象を持ちます。三気の里では、給食を業者に委託していますが、今年度から外国の方が働かれるようになりました。しっかりと働かれている姿を見させてもらっています。文化の違い、言葉の壁など様々な課題はあると思いますが、時と共に、働き方、仕事の種類、仕事への価値観などが変わっていく中、事業を継続するためにも、色々なことを考え、取り入れ、実践していきたいと感じさせられました。

ハラスメント

ハラスメント委員会

支援員 八木良江

ハラスメントとは、様々な場面における「嫌がらせ」「いじめ」などが定義としてあります。発言や行動などを実際にした方の意図には関係なく、それが相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたら、不利益を与えたり、脅威を与えた場合、ハラスメントにあたります。相手の人権を無視した不快感を与える行為であり、人権問題の一つとされています。三気の里は男女混合チームで、世代も違えば、職種も様々です。スタッフの健康を保持するためにもハラスメントの防止対策は不可欠であると考えています。そのためには、スタッフの一人ひとりが、ハラスメントについて理解し、言動に配慮しなければならぬと思います。12月はハラスメント撲滅月間です。委員会では啓発ポスターの掲示、様々なハラスメントの情報提供、人権擁護委員会との連携を図りながら、ハラスメントを意識してもらえようように活動を行います。笑顔で互いを思いやる気持ちで、楽しく仕事がで

きる職場を目指していきたいと思っております。

BETREE

「残暑のリフレッシュ」

支援員 橋本 佳菜絵

9月のレクリエーションは菊池溪谷へ出かけました。普段の「刀」の皆さんは、夏の暑い日も雨が降る日も毎日30分ほどの散歩を頑張っておられます。その散歩で培った体力を活かして散策を楽しんで頂くとうと涼しい溪谷を歩き、散策の後は今話題の台湾スイーツのお店でおやつを購入しました。

終始にこやかに風景の写真を撮ったり、冷たい川の水に触れたりと楽しまれていた1さん。

しかし一番嬉しかったのは昼食で出てきた冷たい緑茶を飲んだこと。「本当は時々飲みたいんだけど、帰宅の時は飲めないから」と緑茶を嬉しそうに味わう姿に、集団生活の中でたくさんのお小さな我慢をされていることに改めて気付かされました。この気付きを忘れず、今後のレクリエーションの計画や普段の支援に活かしたいと思えます。

今年のトクダマ

今年の夏、三気の里敷地内にタヌキが現れるようになりました。

夜行性なので普段姿を見ることはあまり無いのですが、朝出勤してみるとタヌキからの置土産が決まった所にとっさり！
木酢液や害獣用忌避剤を撒いたり、板に釘をびっしりと打ち付けたものを周りに敷き詰めたりしたのですが効果は有りませんでした。

タヌキの撃退法をご存じの方は是非ご一報ください！

タヌキ博士



10月スケジュール

03(火) 芸術クラブ
 04(水)～06(金) 大津町健診
 07(土) 家族職員懇親会
 08(日) 施設親善スポーツ大会
 10(火) 意見・苦情交換会
 14(土) 運動会
 15(日) 大津町福祉まつり
 17(火) 田中Dr.ケースカンファレンス
 19(木) 協力医来診

20(金) ゴールドクラブ
 23(月) ふれあい交流会(カット)
 26(木) さんきマーケット
 27(金) 3班レクリエーション
 31(火) 1班レクリエーション
 毎週月曜日 訪問理容サービス
 毎週火曜日 BeTREE役場販売
 BeTREE <営業時間>
 8:00～18:00

betree314



「南阿蘇を大満喫」

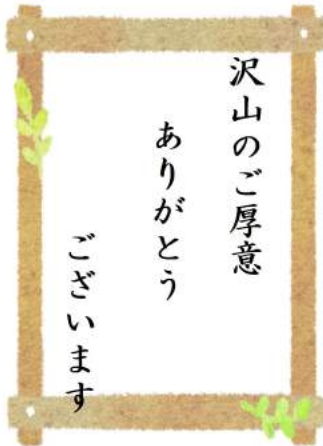
支援員 中牟田真奈美

まだ残暑の残る9月15日、アンパの皆さんと南阿蘇に出掛けてきました。目的は二つあり、先ずは『奥あそフルーツガーデン』にて石窯を使ったピザ作り体験。野菜を切ったり、生地を伸ばしたり、日頃の皆さんの成果もありきれいなピザが完成！

次は薪割りや火の番を分担し石窯で焼きあげて美味しいピザが出来上がりました。皆さん大満足の出来栄で、ピザでお腹が満たされた後は、沢山あるフルーツの中からこれから旬のキウイと姫りんご狩りを楽しみました。

次の目的地は高森駅。今年7月に7年ぶりに全線再開した南阿蘇鉄道に乗りに行きました。高森駅から立野駅までアニメのワンピースとコラボした『サニー号トレイン』に乗車。車内もワンピースの絵が描いてあり、宝物

があったり麦わら帽子が置いてあったりと初めての体験に皆さんのテンションも上がり、車窓からの阿蘇の山々の眺めも最高で、さらに車掌さんのガイドも楽しめました。久しぶりの公共の乗り物を利用しての大冒険、また人とふれあいながらのレクリエーションができたなら良いなあ〜と思います。



【寄付】

有馬幸雄様 財津睦人様

木村産業様 藤井法仁様
 田中満子様 井口チズヨ様

【物品】

赤星央子様 金森保様
 柴田博子様 米村秋江様
 今村修一様 魚谷秀文様
 田中満子様 宮本眞一様
 櫻木勇夫様 清田栄一様
 渡邊正司様 松村俊介様
 中村秀隆様 荒牧貴子様
 牛島智子様 渡邊京子様
 吉田和信様 東坂富士代様
 森川琇介様 岩切美佐子様
 井手上昌子様
 大津支援学校様
 宇都宮建設様
 リニエルサプライ様
 ホテルサンク라운大阿蘇様

【後援会ありがとうございます】

高森井栄様 松山健様
 後藤啓市様 前田克英様
 中村秀隆様 千田英文様
 白井桂子様 牛島智子様
 勇明子様

【VO】

前淵隆子様 ブラッシング